

# 能登半島地震・北陸新幹線敦賀開業に伴う 4月・GWの北陸地域における宿泊稼働指数

2024年5月9日

富山国際大学 大谷友男研究室  
公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部

地震前の輪島市上大沢の間垣集落の景観

# 今回の発表について

- 能登半島地震発生後の北陸の宿泊施設の稼働状況を宿泊予約サイトの情報を用いたビッグデータ分析により明らかにし、発表。

<https://www.tuins.ac.jp/2024/02/14174/> (1月の動向・2月7日発表)

<https://www.tuins.ac.jp/2024/03/14490/> (2月の動向・3月7日発表)

<https://www.tuins.ac.jp/2024/04/14739/> (3月の動向・4月3日発表)

- 金沢や高岡など被災地に近い都市では復旧関係者等の需要により高水準にあること、被災地から離れた地域では風評被害により低水準にあるものの2月以降は回復基調にあること、北陸新幹線敦賀開業後は福井県や温泉地の都市でも稼働指数が上昇していることなどを明らかにした。
- 今回の発表では、これまでの動向を踏まえ、4月・GWの宿泊客の動きにどのような動きがあったかを明らかにする。

# 今回の発表について

- これまでの発表では、平日・土休日に分けて分析をしていたが、今回の発表では平日・休前日に分けて分析をしている。

	平日	土休日／休前日
これまでの発表	月曜日～金曜日	土曜日、日曜日、祝日 年未年始（12月29日～1月3日）
今回の発表	月曜日～金曜日 日曜日（翌日が休日の場合を除く） 祝日（翌日が土日祝日の場合を除く）	土曜日 日曜日（翌日が休日の場合） 祝日（翌日が土日祝日の場合） 年未年始（12月29日～1月2日）

- 氷見市を含む能登半島においては、一部で営業を再開した宿泊施設もあるが、宿泊稼働指数は算出されておらず、分析の対象外である。

# 宿泊稼働指数について

- 全国のホテル・旅館における日次の空室水準を宿泊予約サイトのビッグデータをもとに指数化したもので、**前日までの実績**が取れることが特徴。
- 観光庁「宿泊旅行統計調査（速報）」では、稼働率が公表されているが、県別データは各月末に前々月の結果が発表されており、**2か月のタイムラグ**がある。
- 原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく（算出方法等は次ページに記載）。
- 観光庁が公表している客室稼働率の結果とほぼ連動しており、**速報性の高い数値**として活用可能。
- 直近のデータを追うことができることから、政府の「月例経済報告等に関する関係閣僚会議」の資料にも活用されるなど（2021年2月ほか）、最新の景気動向を分析するデータとして活用されている。

# 宿泊稼働指数の算出方法

## ■日次（原数値）

$100 - \{ ( \text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} ) \div ( \text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} ) \times 100 \}$

※ 最小空室数が0、最大空室数が150、当日空室数が40の場合、数値を代入すると以下のようになる。

$$\begin{aligned} & 100 - \{ (40 - 0) \div (150 - 0) \times 100 \} \\ &= 100 - (40 \div 150 \times 100) \\ &= 100 - 26.7 \\ &= 73.3 \end{aligned}$$

※ 当該地域において、宿泊施設が過去365日以上連続して立地・稼働していると判定される場合に限り算出

# 北陸地域全体の傾向

# 富山県・石川県は依然として高水準

- 平日の宿泊稼働指数は、富山・石川が依然として高水準。
- コロナ前同月（2019年4月）と比較しても高値。
- 休日は北陸3県で80を超える。一部でコロナ前同月差がマイナスだが、同月は改元に伴う10連休を含むためと思量。

北陸地域の宿泊稼働指数（平日）

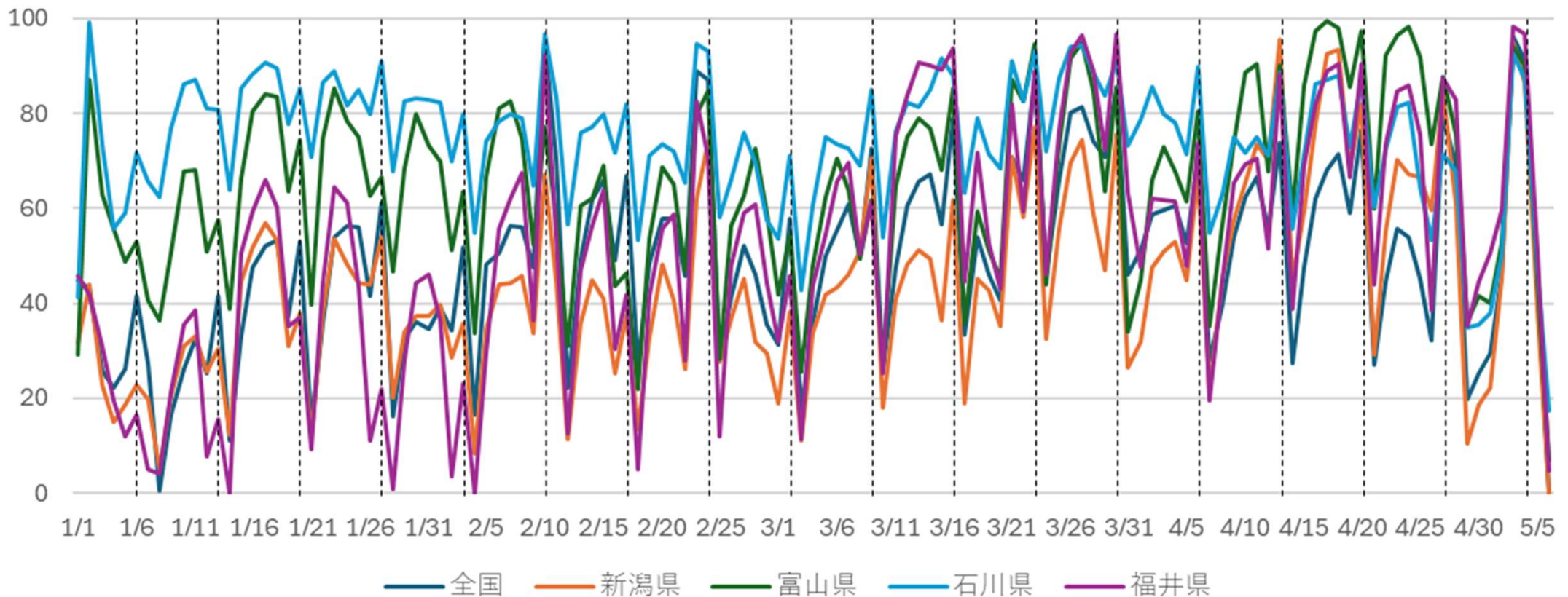
	2019年	2024年				コロナ前 同月差	前月差
	4月	1月	2月	3月	4月		
新潟県	43.8	32.9	33.4	43.2	<b>55.0</b>	11.2	11.8
富山県	46.7	64.2	57.1	61.5	<b>73.6</b>	26.9	12.1
石川県	44.9	78.6	69.9	75.6	<b>70.0</b>	25.1	▲5.6
福井県	50.1	33.1	39.8	64.3	<b>60.8</b>	10.7	▲3.5
全国	53.1	32.8	45.1	53.8	<b>49.1</b>	▲4.0	▲4.7

北陸地域の宿泊稼働指数（休前日）

	2019年	2024年				コロナ前 同月差	前月差
	4月	1月	2月	3月	4月		
新潟県	76.4	34.3	53.6	64.7	<b>78.1</b>	1.7	13.4
富山県	84.0	58.4	68.2	76.3	<b>86.3</b>	2.3	10.0
石川県	87.0	76.4	88.3	85.6	<b>81.0</b>	▲6.0	▲4.6
福井県	87.6	26.2	60.8	77.3	<b>84.6</b>	▲3.0	7.3
全国	83.3	44.5	76.8	76.5	<b>73.8</b>	▲9.5	▲2.7

# 4月は中旬から指数が上昇、GWの合間には下落傾向

能登半島地震後（2024年1月～）の北陸地域の宿泊稼働指数



注) グラフ中の点線は土曜日 (以下同様)



# 復旧関係者等の需要や福井の新幹線効果は継続

- 富山県、石川県、福井県の4月の宿泊稼働指数は、平日・休前日ともに全国よりも高い水準であった。各県とも4月中旬頃から指数が上昇傾向にあるのは、北陸応援割の適用が増えたためではないかと考えられる。
- 富山県、石川県の平日は、コロナ前同月（2019年4月）と比較して25ポイント以上の差がある。これは復旧関係者や二次避難者の需要が依然として大きいと考える。
- 福井県は、平日は前月比で若干のマイナスとなっているが、コロナ前同月と比較して10ポイント以上高い値であること、休前日に関してはコロナ前同月より若干のマイナスであるが、前月よりも高い値を示しており、北陸新幹線敦賀開業の効果が続いていると考えられる。

# 県別・主要都市の傾向

# 上越、妙高、佐渡は県全体より高水準

- 上越市や妙高市、佐渡市は、平日・休前日ともに県全体の宿泊稼働指数よりも高水準。
- 平日におけるコロナ前同月差は佐渡市で42.6ポイント、妙高市で32.0ポイントと大幅に上昇。

新潟県の宿泊稼働指数（平日）

	2019年 4月	2024年				コロナ前 同月差	前月差
		1月	2月	3月	4月		
新潟県	43.8	32.9	33.4	43.2	<b>55.0</b>	11.2	11.8
新潟市	45.3	32.4	32.3	49.2	<b>51.1</b>	5.8	1.9
妙高市	32.7	63.4	71.3	61.0	<b>64.7</b>	32.0	3.7
上越市	54.2	28.9	30.7	43.6	<b>70.2</b>	16.0	26.6
佐渡市	39.0	59.9	76.6	75.5	<b>81.6</b>	42.6	6.1

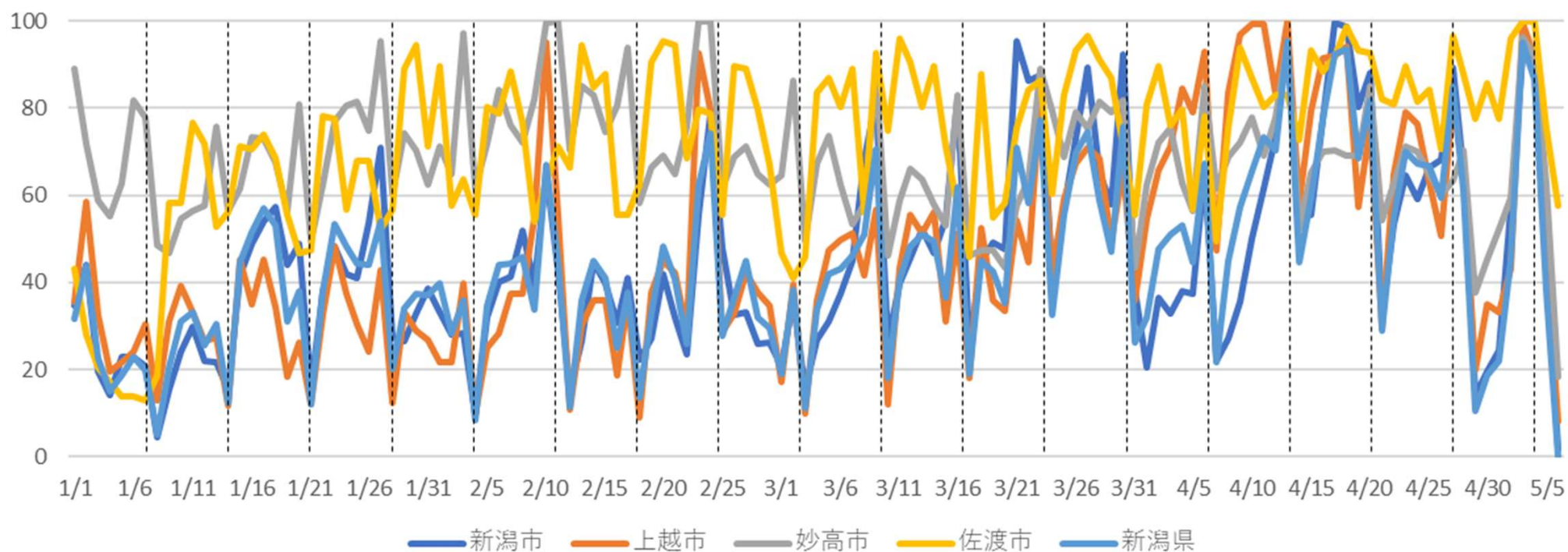
新潟県の宿泊稼働指数（休前日）

	2019年 4月	2024年				コロナ前 同月差	前月差
		1月	2月	3月	4月		
新潟県	76.4	34.3	53.6	64.7	<b>78.1</b>	1.7	13.4
新潟市	79.5	37.6	51.9	76.0	<b>80.7</b>	1.2	4.7
妙高市	72.6	81.8	98.5	85.5	<b>79.7</b>	7.1	▲5.8
上越市	85.3	35.0	66.5	59.2	<b>83.0</b>	▲2.3	23.8
佐渡市	78.7	35.6	68.6	69.7	<b>87.6</b>	8.9	17.9

# 上越市は桜シーズンに指数が上昇

- 上越市の4月上旬～中旬にかけての指数の上昇は、高田城の観桜会など桜シーズンによるものと思量。

能登半島地震後（2024年1月～）の新潟県内各市の宿泊稼働指数



# 富山県…休前日の指数が各市とも高水準

- 県全体で平日・休前日ともに指数の前月差が10ポイント以上上昇。平日のコロナ前同月差も大幅上昇。
- 休前日の指数は各市とも高水準。
- 高岡市は平日の指数が依然として80を超える高水準。コロナ前同月差も40ポイント以上。

富山県の宿泊稼働指数（平日）

	2019年 4月	2024年				コロナ前 同月差	前月差
		1月	2月	3月	4月		
富山県	46.7	64.2	57.1	61.5	<b>73.6</b>	26.9	12.1
富山市	55.8	64.5	57.8	58.1	<b>73.6</b>	17.8	15.5
高岡市	42.6	94.0	84.9	86.8	<b>83.3</b>	40.7	▲3.5
魚津市	47.3	43.5	36.0	48.1	<b>66.1</b>	18.8	18.0
黒部市	47.3	28.5	45.5	63.7	<b>80.7</b>	33.4	17.0

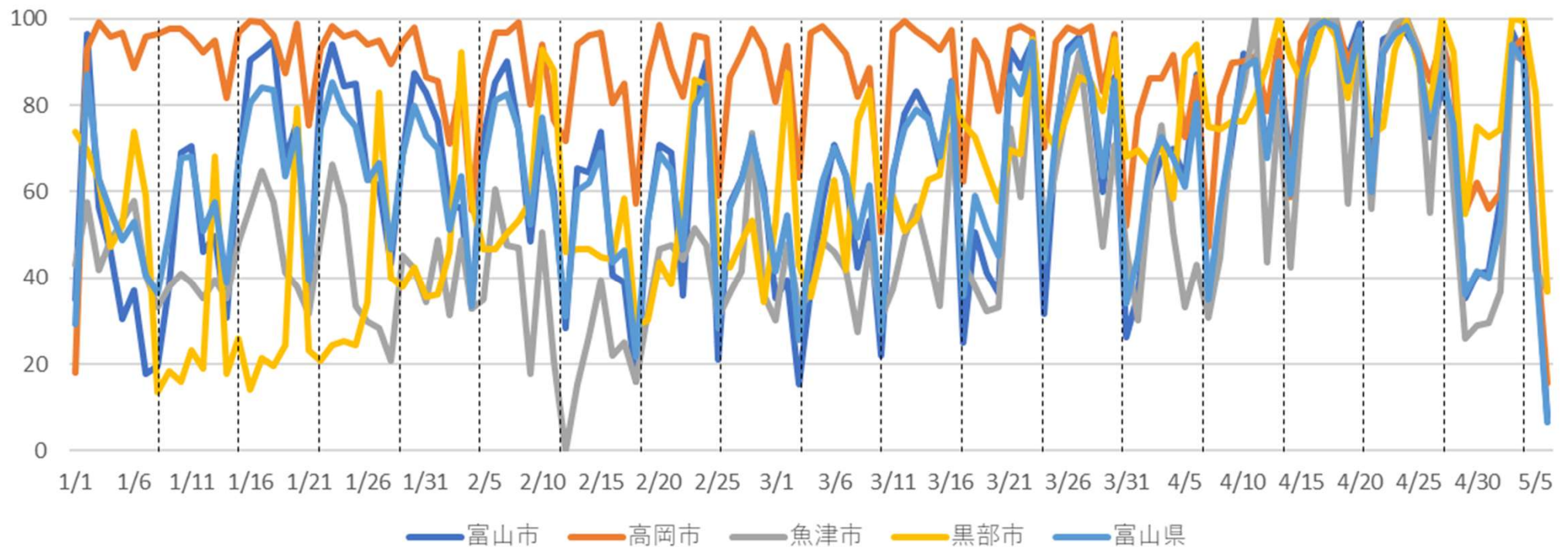
富山県の宿泊稼働指数（休前日）

	2019年 4月	2024年				コロナ前 同月差	前月差
		1月	2月	3月	4月		
富山県	84.0	58.4	68.2	76.3	<b>86.3</b>	2.3	10.0
富山市	86.6	53.3	66.8	71.9	<b>87.2</b>	0.6	15.3
高岡市	84.0	83.5	88.8	94.6	<b>91.7</b>	7.7	▲2.9
魚津市	77.4	43.6	40.7	66.8	<b>75.8</b>	▲1.6	9.0
黒部市	95.2	72.4	83.7	89.0	<b>96.7</b>	1.5	7.7

# 4月中旬以降の指数が高水準で推移

- 各市とも4月中旬以降に指数が高水準で推移。立山黒部アルペンルートの開通（4/15）や黒部峡谷鉄道の一部開通（4/19）、となみチューリップフェア（4/23～5/5）や北陸応援割が影響していると思量。

能登半島地震後（2024年1月～）の富山県内各市の宿泊稼働指数



# 金沢市は平日・休前日ともに指数がやや低下

- 平日・休前日ともに各市とも高水準。
- 平日ではコロナ前同月差が10ポイント以上高く、復旧関係者による宿泊や二次避難者の滞在が続いていると思われる。
- 金沢市は平日・休前日ともに指数がやや低下。宿泊容量の大きさも一因か。

石川県の宿泊稼働指数（平日）

	2019年 4月	2024年				コロナ前 同月差	前月差
		1月	2月	3月	4月		
石川県	44.9	78.6	69.9	75.6	<b>70.0</b>	25.1	▲5.6
金沢市	44.5	82.4	66.0	72.8	<b>63.6</b>	19.1	▲9.2
小松市	63.4	68.9	70.1	74.8	<b>76.8</b>	13.4	2.0
加賀市	39.2	54.5	61.7	71.0	<b>73.7</b>	34.5	2.7
白山市	73.3	90.3	93.5	89.7	<b>85.8</b>	12.5	▲3.9

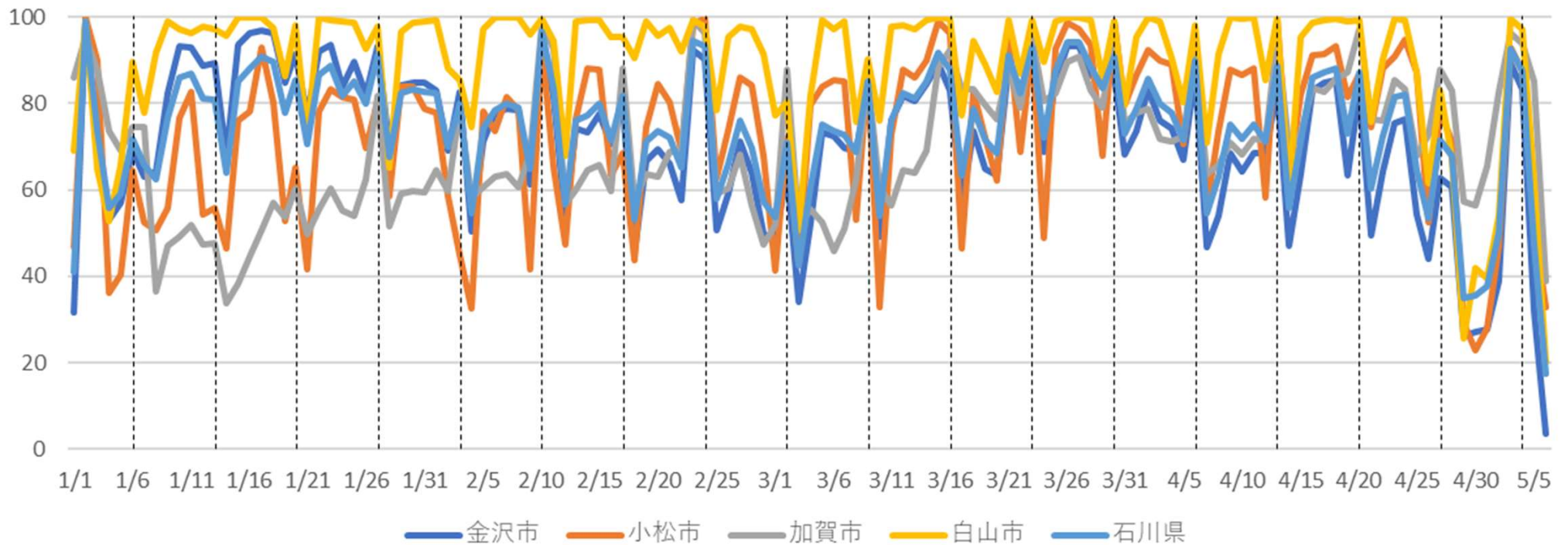
石川県の宿泊稼働指数（休前日）

	2019年 4月	2024年				コロナ前 同月差	前月差
		1月	2月	3月	4月		
石川県	87.0	76.4	88.3	85.6	<b>81.0</b>	▲6.0	▲4.6
金沢市	89.1	76.8	87.1	81.5	<b>75.3</b>	▲13.8	▲6.2
小松市	79.8	66.5	78.3	89.5	<b>85.8</b>	6.1	▲3.7
加賀市	85.2	74.4	92.3	91.9	<b>90.9</b>	5.7	▲1.0
白山市	85.4	89.8	95.4	93.7	<b>89.6</b>	4.2	▲4.1

# 高水準続くも、GWの合間には指数が低下傾向

- 各市とも平日・土休日ともに高稼働が続いているが、GWの合間には各市とも指数が低下傾向。

能登半島地震後（2024年1月～）の石川県内各市の宿泊稼働指数





# 福井県…北陸新幹線敦賀開業効果が継続

- 平日の指数は高水準。前月差こそ低下しているが、コロナ前同月差は敦賀市を除いては20ポイント前後上昇。
- 休前日の指数は各市とも80超えの高水準。
- 北陸新幹線敦賀開業効果が継続していると思われる。

福井県の宿泊稼働指数（平日）

	2019年	2024年				コロナ前 同月差	前月差
	4月	1月	2月	3月	4月		
福井県	50.1	33.1	39.8	64.3	<b>60.8</b>	10.7	▲3.5
福井市	44.8	40.9	43.1	73.0	<b>65.3</b>	20.5	▲7.7
敦賀市	75.0	38.3	34.8	64.8	<b>74.1</b>	▲0.9	9.3
あわら市	53.1	59.3	67.3	86.5	<b>72.5</b>	19.4	▲14.0
坂井市	63.4	59.7	72.2	88.4	<b>84.2</b>	20.8	▲4.2

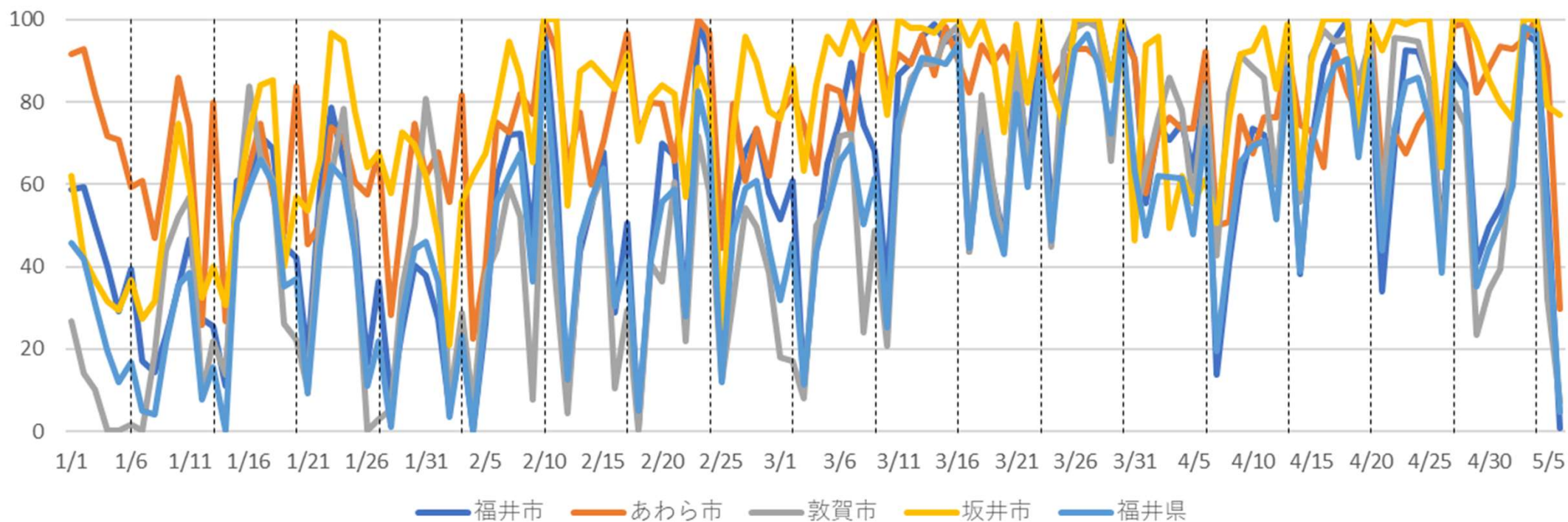
福井県の宿泊稼働指数（休前日）

	2019年	2024年				コロナ前 同月差	前月差
	4月	1月	2月	3月	4月		
福井県	87.6	26.2	60.8	77.3	<b>84.6</b>	▲3.0	7.3
福井市	87.2	39.8	71.3	83.7	<b>87.6</b>	0.4	3.9
敦賀市	87.1	12.8	49.1	69.4	<b>85.1</b>	▲2.0	15.7
あわら市	94.9	76.6	94.6	91.6	<b>96.0</b>	1.1	4.4
坂井市	89.0	47.5	86.2	97.3	<b>91.8</b>	2.8	▲5.5

# 北陸新幹線開業後は高水準で推移

- 北陸新幹線敦賀開業（3/16）以降は、高水準で推移。4月上旬に一時的に落ち込むが、その後は再び上昇。応援割のほかコンベンションの効果も。

能登半島地震後（2024年1月～）の福井県内各市の宿泊稼働指数



# GWの動向

# 富山県ではGW前半や合間も指数は低下せず

- 富山県の各市はGW前半や合間も、あまり指数が低下していない。アルペンルートや黒部峡谷鉄道の開通、となみチューリップフェアなどの効果と思われる。

ゴールデンウィークの宿泊稼働指数（新潟県）

	新潟市	上越市	妙高市	佐渡市	新潟県
4/27 土	89.4	82.1	63.2	96.6	84.7
4/28 日	65.4	64.0	70.4	87.7	60.9
4/29 祝	14.1	19.8	37.7	77.4	10.4
4/30 火	19.4	34.9	45.3	85.6	18.7
5/1 水	24.5	33.1	52.2	77.4	22.1
5/2 木	57.2	43.1	59.5	95.9	45.2
5/3 祝	92.1	99.5	96.4	100.0	95.1
5/4 祝	90.8	91.6	91.9	100.0	86.5
5/5 祝	45.6	48.0	62.8	75.3	38.1
5/6 祝	1.7	8.1	18.2	57.5	0.0

ゴールデンウィークの宿泊稼働指数（富山県）

	富山市	高岡市	魚津市	黒部市	富山県
4/27 土	83.8	94.9	98.2	100.0	87.6
4/28 日	76.6	85.4	61.0	92.3	75.6
4/29 祝	35.4	55.4	26.0	55.0	36.2
4/30 火	41.0	62.1	28.9	75.1	41.5
5/1 水	41.7	56.0	29.6	72.8	40.0
5/2 木	58.1	59.6	36.8	74.6	52.8
5/3 祝	97.1	93.3	91.7	100.0	94.1
5/4 祝	90.7	95.7	90.6	99.4	90.0
5/5 祝	47.5	49.5	41.9	82.8	44.4
5/6 祝	7.7	15.5	37.2	36.7	6.7

# 福井県での新幹線開業効果はここでも

- 福井県の各市はGW中の指数が高水準。あわら市は連休の合間も高水準。富山県や石川県と比べても高水準であり、北陸新幹線敦賀開業の効果のほどが伺える。

ゴールデンウィークの宿泊稼働指数（石川県）

	金沢市	小松市	加賀市	白山市	石川県
4/27 土	62.8	78.2	87.7	83.0	71.5
4/28 日	60.7	71.2	83.0	67.4	67.8
4/29 祝	26.2	29.3	57.4	25.7	34.9
4/30 火	27.1	22.9	56.4	42.0	35.5
5/1 水	27.6	28.1	65.6	39.5	37.8
5/2 木	38.9	46.9	82.7	54.0	50.2
5/3 祝	89.4	93.0	96.3	99.6	92.6
5/4 祝	83.3	87.5	94.0	97.1	87.5
5/5 祝	31.8	51.7	85.0	62.0	47.2
5/6 祝	3.6	32.7	38.9	20.3	17.5

ゴールデンウィークの宿泊稼働指数（福井県）

	福井市	あわら市	敦賀市	坂井市	福井県
4/27 土	89.6	98.3	80.7	100.0	87.3
4/28 日	84.3	99.1	74.3	100.0	83.0
4/29 祝	41.0	82.2	23.3	94.7	35.2
4/30 火	49.6	88.3	34.3	85.3	44.4
5/1 水	54.6	93.5	39.4	80.0	50.6
5/2 木	61.4	93.0	68.9	75.8	59.6
5/3 祝	96.9	95.2	100.0	100.0	98.2
5/4 祝	94.8	100.0	100.0	100.0	96.7
5/5 祝	56.3	88.7	32.2	78.9	50.9
5/6 祝	0.8	29.6	7.2	76.8	4.8

# 結果のまとめ

# 応援割の適用エリアが変わるGW明けの動向に注目

- 石川県や富山県では宿泊稼働指数は、地震後から高水準で推移。金沢市や高岡市などが依然として能登の復旧・復興の拠点となっているが、**復旧需要は徐々に落ち着いている**と考えられる。
- 福井県の宿泊稼働指数は、3月に続いて高水準を維持しており、**北陸新幹線敦賀開業の効果が続いている**と考えられる。
- 北陸応援割の効果に関しては、3月に比べて利用機会が増えてきたことから、利用者による押し上げもあったと考えられる。4月中旬以降の指数の上昇には北陸応援割の適用が影響したのではないかと考えられる。
- 今後は、応援割の適用が石川県のみとなるため、**石川県と他の3県における稼働状況が今後どう推移するか**は注目される。

# 一番の被害を受けた能登半島の復興に向けて

- 能登...ようやく復旧が進み、今後は宿泊施設の営業再開が待たれる

宿泊施設が復旧し、営業再開できたとしても、まだ復旧を進めていく状況にあっては、金沢や高岡などに滞在している復旧関係者を受け入れることが優先される

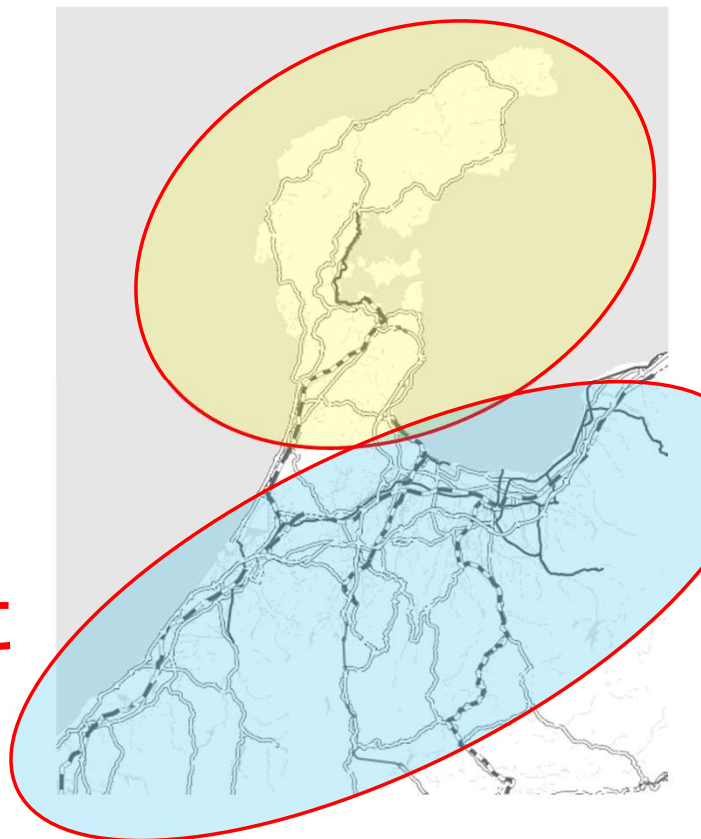


当面は観光という状況にない



**能登の復旧・復興につながるような観光振興に**

例) 宿泊施設や飲食店など観光客が訪れる場所での能登産品の積極利用  
公的機関による能登産品を積極利用している施設や店舗の情報提供  
旅行者側も能登産品を利用している施設や店舗を積極的に利用



**能登の復旧が進んだ時こそ「旅して応援」で息の長い復興支援を**



# お問い合わせ

富山国際大学 現代社会学部 観光専攻  
准教授 大谷友男

TEL : 076-483-8000 (代)

E-mail : totani@tuins.ac.jp